

第6回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 2012年2月14日(火) 10:30～11:00

2. 場 所 中央合同庁舎4号館 10階 1015会議室

3. 出席者 原子力委員会

近藤委員長、鈴木委員長代理、秋庭委員、大庭委員、尾本委員

社団法人日本原子力産業協会

梶村政策推進部長、片山政策推進部リーダー

内閣府

中村参事官、近藤主査

4. 議 題

(1) 原子力産業セミナー2013の結果について(社団法人日本原子力産業協会)

(2) 平成24年度原子力関係経費政府予算案の集計結果について

(3) その他

5. 配付資料

(1) 原子力産業セミナー2013速報

(2) 平成24年度 原子力関係経費政府予算案 総表(案)

(3) 第1回原子力委員会定例会議議事録

(4) 第2回原子力委員会定例会議議事録

6. 審議事項

(近藤委員長) それでは、おはようございます。時間になりましたので、第6回の原子力委員会定例会議を開催させていただきます。

本日の議題は、1つが原子力産業セミナー2013の結果についてご紹介いただくこと、2つが、平成24年度原子力関係経費政府予算案の集計結果についてご説明いただくこと、3つ、その他となっています。よろしくお願いたします。

(中村参事官) 1 番目の議題でございます。原子力産業セミナー 2013 の結果につきまして、社団法人日本原子力産業協会の梶村政策推進部長、片山政策推進部リーダーよりご説明をいただきます。よろしくお願いいたします。

(梶村部長) おはようございます。原子力産業協会の梶村でございます。本日は当協会の活動をご紹介させていただく機会をいただきまして、どうもありがとうございます。

当協会は原子力産業に関する情報提供と、就職支援を目的としまして、原子力産業セミナーを平成18年度から開催しており、今回で6回目となります。本日は2013年度の就職を目指しまして、就職活動をされています学生の方々を対象にした原子力産業セミナー2013の結果につきまして、まだ十分な分析ができていませんけれども、その概要につきまして、本日ご報告させていただきます。

では、担当しています、片山のほうからご説明させていただきます。

(片山リーダー) 原産協会の片山と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、原産セミナーの今年度の開催について簡単にご説明させていただきます。本イベントは、原子力関連企業と学生との接点を設けるということを主旨としておりまして、原子力版の合同企業説明会とご理解いただければと思っております。

対象となります学生は主に大学3年生、もしくはマスターの1年が主にこのイベントに参加してまいります。今年度は東京で1月28日、先々週の土曜日、大阪では2月4日、先週の土曜日に開催されました。

下のグラフを見ていただくとおわかりかと思いますが、今年度で6回目を迎えております。年々順調に参加企業数、それから、参加学生ともにふえてきまして、昨年度は65企業、参加学生が東京、大阪合わせて1,900名という数字になりましたが、ことしは事故の影響もあり、53企業の参加、それから、東京での参加学生が223名、大阪での参加が273名、合計496名の参加にとどまりました。

東京の学生数だけを見ると、約5分の1、大阪の学生数を見ると、半分弱という結果になりました。参加企業は次のページに載っておりますが、主に電力ですとか、日立、東芝、三菱といったメーカー、それから原子力関連の企業です。

参加企業に関しましては、ことしと昨年大きな違いといたしましては、やはり東京電力及びその関連企業が採用を控えたということもございまして、ことしの参加は見合わせということになりました。今年度の特徴といたしましては、最後のページに載っておりますけれども、従来は12月に実施していましたが、経団連の倫理憲章の改定により、2カ月就職活

動の開始が遅くなったことと、学生の試験の都合等も考慮して、1月の末及び2月の初めに実施ということになりました。

また、本セミナーは就職の説明会というだけでなく、放射線、原子力の理解促進という意味合いも兼ね備えておりますので、放射線に関する性質や測定する実演を行いまして、放射線というものの理解も図りました。学生さんも、東京はそうでもなかったのですが、大阪では結構自分で測定をして、実感したという学生さんが結構多くございました。

それで、結果についてですけれども、東京、大阪ともに減少しましたが、従来は大阪が東京の半分ぐらいの学生さん、ちょうど大体半分ということだったんですが、ことしは大阪の参加学生がふえました。この結果については、あくまで推測ではありますが、やはり東京と大阪で原子力に対する考えの温度差というものがあるのではないかとということが一つ、それから、大阪では関西電力のブースが大変学生が混雑しておりました。関西電力をターゲットにきた学生が多かったのですが、一方、東京はやはり東京電力が出展を見合わせたという関係がありまして、減ったのではないかと推測しております。

それから、来ている学生の中身ですけれども、原子力専攻の学生に関しては、減り方は余り大きくない。それほど減っていない。ところが、機械電気系を専門とする学生が大きく減ったと。これも今回の特徴かなと思っております。

簡単ではございますが、報告は以上です。

(近藤委員長) どうもありがとうございました。

それでは、何かご質問がございましたら。

鈴木委員。

(鈴木委員長代理) ありがとうございました。

最後のところ、学生の内訳をもうちょっとデータがもしあれば教えていただきたいのですが。

(片山リーダー) 今、整理している最中です。先週のことですので、まだ合計人数しか出ていないのです。申しわけございません。

(鈴木委員長代理) わかりました。

文科系の方はどれぐらいいらっしゃるんですか。

(片山リーダー) 文科系は東京で約20人、大阪で約65名、やはり企業様が求めているのは、正直言うと理科系のエンジニアという志向が強いです。

(鈴木委員長代理) 逆にこういう状況で来られている方々の希望というか、どういう仕事を求

めているんですか。

(片山リーダー) やはり原子力を専攻している学生さんが多かったということもあり、原子力に強い志を持った学生が比較的多かったということです。逆に機械系の学生ですと、ほかにも自動車ですとか、電気メーカーですとか、いろいろあると思われるので、ことしはその分、そちらへ流れてしまったのかなと推測しております。

(鈴木委員長代理) ありがとうございます。

(近藤委員長) 秋庭委員。

(秋庭委員) ありがとうございます。

女性の割合はどうでしょう。

(片山リーダー) 女性という数字は、逆に差別してしまうことになりますので。

(秋庭委員) このごろ理科系の女性たちも大変、志が高いと思っているので。

(片山リーダー) 感触ですけれども、やはり東京の会場では女性は少なかったです。大阪は文系の方が多く、女性もいらっしゃいました。ただ、具体的な数字はちょっとつかんでおりません。

(秋庭委員) それともう一つ、この写真にコミュニケーションエリアとありますが、ここではどういうコミュニケーションをなされたのか、また、何かその反応などがありましたら、教えていただきたいです。

(片山リーダー) 参加企業の個別ブースでは、企業ごとの説明を、時間を区切って実施しますが、コミュニケーションエリアでは、もっと話を聞きたいとか、学生さんと企業の担当者が個別にじっくり話しをするエリアです。学生さんの反応ですが、原子力産業はどうなるんですかとかいう問い合わせ、相談がございました。ことしは特にそういった相談が多くありました。

(秋庭委員) 若い人たちから今後の原子力はこうあってほしいというような意見はないのですか。アンケートは特にはとられなかったのでしょうか。

(片山リーダー) アンケートはただいま集計中でございます。ただ、原子力の学生さんは、今後も原子力は行くべきだということを熱意を持って力説されている学生さんもいらっしゃいました。ただ、不安がっている学生も逆に多かったというのが実情です。

(近藤委員長) 大庭委員。

(大庭委員) きょうはありがとうございます。一つ質問は、参加企業の数についてです。今年、参加企業が減っておりますけれども、東京電力はともかくとして、どういう企業が参加

を見合わせているのかということについてお伺いします。それから、やはりこういうご時勢ですと、採用するにも以前の状況とはかなり異なる状況にあると思うんですけれども、そのあたりの企業の意識はどんなものだったでしょうか。

(片山リーダー) 減りましたのは、東京電力とその関連会社です。テプコシステムズですとか、要するに東京電力が出資しているところが主に減りました、ことしは。参加企業も正直言って、出ようが出まいが、右を見て、左を見てという企業が多かったのが事実です。ただ、やっぱり原子力として人を絶やすわけにはいかないという主張もありまして、また、今後の政府の方針次第でどうなるかもわからないという、企業側にも不安がありまして、明確にことしは何人とするんだとか、そういったアドバルーンははっきりとは上げていない。ただ、人は絶やすわけにはいかないといった説明の企業が多かったようです。

(大庭委員) 実際の採用人数の計画などはまだわからないということですか。

(片山リーダー) そうですね。逆に我々も教えてもらっていないですね、ことしは何人ということとは。

(大庭委員) わかりました。ありがとうございます。

(近藤委員長) 尾本委員。

(尾本委員) 特段ありません。

(近藤委員長) それでは、まだ終わったばかりのところ、データ等の分析も済んでいないところ無理してお願いして申しわけなかったのですが、また成果が整いましたら、何かでお教えいただければありがたいと思います。きょうはどうもありがとうございました。

次の議題。

(中村参事官) 2番目の議題でございます。昨年12月24日に平成24年度予算の政府原案が取りまとめられました。少し時間がかかりましたけれども、今般、原子力関係経費の政府予算(案)について、集計が取りまとまりましたので、その結果につきまして、近藤主査より説明いたします。

(近藤主査) 近藤でございます。

平成24年度原子力関係経費の政府予算案の取りまとめの結果、速報について事務局よりご説明いたします。

なお、資料のご説明に入る前に、現在、改正法案が出ております原子力規制庁分についてでございますが、規制庁の所掌に係る予算については、原子力安全規制組織等改正法案の成立後に原子力委員会からの所掌から除外されることになってございまして、本年の4月以降、

原子力委員会の集計対象からも除外されることとなりますが、今回集計においては、前年度の予算との対比等の観点から、便宜上、掲載してございますので、その点ご留意願います。

対象の箇所、各省米印を打ってございます。主に規制庁分と、あと核セキュリティーが入っています、警察庁分になります。

では、お手元の資料についてご説明させていただきます。今回は従来の枠組みに係る予算を分類1、また、今般東京電力福島原子力発電所事故に伴う事業に係る予算を分類2として資料に示しているわけでございます。

本年度の全体額で見ますと、約8,839億円と分類1にいたしますと、総表1のほうにございます。まとめで約3,894億円、また、資料で5ページ目になります。5枚目になりますけれども、そちらの総額は、約4,945億円となっております。

主たる省庁別に見ますと、文部科学省が合計で約2,359億円、経済産業省が合計で約1,392億円、環境省でございますが、本省分として、4,513億円で、原子力規制庁に係る部分といたしまして、441億円となっております。

今般、全体で約8,839億円となっているところでございますが、その大半でございますが、除染にかかる経費が約3721億円、また、放射性物質、汚染廃棄物処理に係る費用として、約772億円と、全体の約51%程度を占めるような結果になってございます。

簡単ではございますが、以上でございます。

(近藤委員長) ありがとうございます。

まだすっかり頭に入らない。

この2.のほう、これもよくわからない。

(近藤主査) 申しわけございません、2.については、(1)として、額が集計できるものを

(1)といたしまして、事業の中に原子力関係経費に関する内容がありますが、額がその総額の内数になっていることから、集計できないとの観点で(2)というのを設けさせて、各省の取り組みについて取り上げているというところでございます。

(近藤委員長) なるほど。この一番最後の表はそういう考え方でつくったものということですね。

まず、1と2は独立なんですね。

(近藤主査) はい。独立してございます。重複はさせてございません。

(近藤委員長) この1.の総表なるものは一体何だというと、これは特会で一般会計の情報を扱うもので、総表という言葉を使っているということですね。

(近藤主査) 従来からの枠組みという各省の取り組みのところで。

(近藤委員長) 2を除くという意味ね。

(近藤主査) はい。2を除いてございます。

(秋庭委員) ちょっと伺いたいのですが、2.の福島事故に伴う事業のところで、担当の省庁の下に括弧、例えば内閣官房(2億円)とか財務省(約0.6億円)とかありますが、この括弧内の数字は何ですか。

(近藤主査) すみません、事業が複数あるところはちょっと見にくいかと思い、集計をしたところでございます。

(近藤委員長) 合計は。

(近藤主査) 各省庁の合計をちょっと簡単ではございますが、複数事業になるところはまとめてさせていただいております。

(近藤委員長) どうぞ。

(尾本委員) 原子力関係経費とはそもそも何かということですが、今回ので、要は福島を除染等にかかわる環境省の部分は、これは全然別ですよと定義したということですね。環境省の中の、今後生まれてくる規制関係のは相変わらず原子力関係経費ということになるんだけど、そこは要するに今回の事故に関して、原子力関係経費というものの定義がどんなふうに改めてなったのかということですが。

(近藤主査) 原子力関係経費の定義としては、環境省のほうで行われている除染等の事業も含めてございます。それはでも、あくまでも原子力発電利用の観点で今回の事故に伴って発生しているものでもございますし、そういった観点で入れてございます。

(尾本委員) そうしますと、この資料の何枚目か、後ろのほうに環境省の放射性物質汚染廃棄物処理事業、772億円というのがありますね。これは一番トップのページの中に、これも含まれているということですか。でも、環境省の数値を見ると、それよりも小さな数字になっていますね。

(近藤主査) 申しわけございません、1と2は事業で分けてございまして、数字の重複はしてございません。

(鈴木委員長代理) だから、1と2を合計しなければいけないんですね。

(近藤主査) はい。1.の数字と2.の数字を足し合わせますと、各省庁の予算総額が出てくるという形に分けてございます。

(鈴木委員長代理) その合計の数値はここにはないと。さっき口頭で八千八百幾らとおっしゃ

ったのが、その1と2の合計。

(近藤主査) はい。

(鈴木委員長代理) わかりました。それで、8, 839億円だったかな、その数値というのは、本来は将来省かれるであろう規制庁の予算も入っていると。

(近藤主査) はい。入ってございます。

(大庭委員) 2. の(2)というのは、これは内数でしか計算できていないわけですよね。そうすると、8, 839億円の中ではどうなっているんですか。内数だけ抜くわけにはいかないんでしょう。

(近藤主査) なので、その8, 839億円には含めてございません。

(大庭委員) なるほど。それでこれに、上に事業の一部にその総額の集計から除外と書いてあるということですね、わかりました。

ただ、総額8, 839億円と口頭で報告を受けたんですけれども、その総額についての記載がこの定例会の場にあがっている資料の中にないというのは、ちょっと具合が悪いのではないのでしょうか。つまり、後でレビューするときに、資料の中には総額の記載がなく、全部議事録をチェックしないとそれが出てこないというのはちょっと問題だと思うんですけれども、どうでしょう。

(近藤委員長) 要するにこの389と494、これの足し算はやらないんですか。

(鈴木委員長代理) 8, 339億円になりますね。

(近藤委員長) それ足す内数分とがあると。

(大庭委員) そう。1枚でも別途総額を示している資料があると、すっきりするような気もするんですが。

(近藤委員長) わかりました。

(鈴木委員長代理) 1と2を足したものを。

(大庭委員) 1と2を足したもののプラス、その内数ですから、これはしようがないと思うんですね。

(近藤委員長) それで、これは今後どうするんですか。これを評価するのは我々の仕事になっているんですか。

(中村参事官) 原子力委員会は毎年、年度末のころですけれども、次年度の原子力関係経費の年度計画のようなものをつくって取りまとめておりますので、それを取りまとめる際のベースとなるデータとしていただければと思います。

(近藤委員長) それにしても、この安全規制対策のところ、23年度分は書いていないんだけど、これに対する23年度分というのはあるわけですね、実際に。

(近藤主査) そこでございますが、文部科学省、経産省からのを持ってきているというのがありますけれども、そこは規制庁準備室のほうも示してございませんで、一応、集計上難しいということで、バーにしております。

(近藤委員長) そうすると、23年度のこの前年度比というのも実はおかしいわけね。安全対策抜きで比較していると。一番最後の欄は。

(近藤主査) そうですね。経産省であれば、保安院分は除いて、文科省であれば移管分は除いてというような、別になってございます。

(近藤委員長) だから、(2)の表の最後のところの、これも入っていないわけね。だから、本来比較するべきものではないわけだ。

(近藤主査) はい。

(近藤委員長) それでは、よろしいですか。ご報告があったということで。

では、ありがとうございました。

そういたしますと、その他議題ですか。

(中村参事官) 事務局のほうは特段準備をしております。

ご連絡でございますけれども、資料の第3号、それから、資料の第4号といたしまして、第1回定例会及び第2回定例会の議事録をお配りしております。

以上です。

(近藤委員長) ありがとうございました。

ほかに先生方のほうでありますか。よろしいですか。

それでは、きょうはこれで終わりにしましょう。どうもありがとうございました。

(中村参事官) それでは、次回の予定でございます。

次回、第7回原子力委員会定例会につきましては、開催日時2月21日火曜日、10時半、場所はここの会議室を予定しております。

以上です。

(近藤委員長) どうもありがとうございました。

終わります。

—了—